

海外安全対策情報（2023 年 1 月～3 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

ボゴタ市、メデジン市、カリ市等の都市部を含め、窃盗・強盗の一般犯罪被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも、飲食店内の置き引き、バイクを利用した強盗・ひったくり、夜間の路上強盗等の発生が見られる。また、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る、道路に「まきびし」をまいてわざと運転中の車両のタイヤをパンクさせ高額な修理業者を紹介する、いわゆる「ぼったくり」行為等、様々な手口の犯罪が見られる。

国防省が発表した 2022 年中の統計によれば、コロンビア全体の人口 10 万人あたりの殺人事件発生率は 26.9 で、前年同期比で 0.8 ポイント減少した。他方、強盗や窃盗事件の発生件数は 353,752 件で前年対比 26%の増加を記録した。身近な犯罪が増加しているため、日頃から犯罪被害に遭わないため、十分な警戒が必要である。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2022 年中は、3 月 26 日にボゴタ市南部の交番（CAI）への爆破テロ攻撃が発生したほか、ELN や クラン・デル・ゴルフォによる武装ストライキにおける治安当局やインフラ施設に対するテロ行為等により、年間で 526 件を記録し、前年の 228 件と比べ 131%増加した。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では 2017 年 6 月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む 3 名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019 年 1 月、市内の警察学校内で学生 22 名が死亡する ELN による自動車爆弾が発生しているほか、上述の 2022 年 3 月 26 日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（CAI）の爆弾テロでは、付近にいた児童 2 名が死亡、勤務中の警察官 1 名を含む 25 名が負傷、交番付近の家屋等約 50 戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2023年

- ・ 1月2日 カウカ県トリビオ市で、F A R Cの武装攻撃を受けた警察官1名が死亡。
- ・ 1月28日 アンティオキア県サラゴサ市の農村地域で、E L Nが仕掛けた地雷原で軍人1名が死亡。
- ・ 2月22日 ボリバル県アレナル市で、水道施設にE L Nが仕掛けた爆弾が爆発し、市民4名が負傷。
- ・ 3月15日 アラウカ県サラベナ市で、E L Nが陸軍を攻撃し、軍人1名が死亡。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

2022年中の誘拐事件は222件で前年対比39%の増加、恐喝事件は9,271件で前年対比11%の増加を記録した。

E L N等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。